

## 若すぎる社員の急逝を偲ぶ

8月20日（金）台車検査車両所の入社一年の新入社員が21歳という若さでこの世を去りました。なぜ亡くなったのか詳細は知らされていませんが、あまりにも若過ぎる逝去にご冥福を祈るばかりです。

彼は、承知のとおり昨年12月に使用が開始された新台車組立装置の「見学者」という名目の見習い中に、管理者より許可をもらい新組立装置で作業をしていたところ、動作中の軸箱支持昇降装置に誤って足を挟まれるという痛ましい労働災害事故に遭いました。その後も同装置に輪軸の搬送治具が挟まれる事故もあり、私たち JR 東海労は、この労災事故に対し「新組立装置の検証不足による見切り発車が招いた事故である」「昇降装置の構造的欠陥である」と会社に対し組立装置の改修を求めました。しかし、会社は装置の不備を認めようとはせず、「マニュアルどおりにやっていない」「動いている装置に勝手に近づいた」などと労災事故の発生はすべて本人に責任があるとして会社の非を認めませんでした。しかしその後組立装置は改修されました。

翻って新聞報道等によると昨年の自殺者は3万人を越え、今年の上旬の数も7月で2万人近いと言われていています。自殺の原因は失業や生活苦が増える一方「うつ病」などの精神的なものが3割を超えており、社員に対する処遇の質低下・パワハラ等も推測されると報じられています。またその他にも心筋梗塞等の突然死、最近では熱中症による死亡も増加しています。

一方 JR 東海会社では、些細なミスに対して社員を別室に呼び出しての過剰な事情聴取、新幹線の運転中に執拗に試問を繰り返すなど社員に対する異常な対応も行われています。また通常業務が終わっても半ば強制的な QC 活動・様々なプロジェクトへの参加要請が行われており、過度のプレッシャーになっていると聞きます。他方では一度遅刻やミスをすれば取り返すのに3年はかかるなどとも噂されています。

この度の、彼のあまりにも若すぎる逝去は残念でなりません。彼は、8月20日に出勤することなくこの世を去りました。台検の所長は、8月23日の臨時総点呼において彼の冥福を祈り黙祷を行い、最後の言葉として「安全綱領の唱和」で締めくくりました。

若すぎる社員の逝去にご冥福をお祈ります。

2010年9月1日

J R 東海労働組合大阪台車検査車両所分会